

東京科学大学 CUMOT×STAMP連携プログラム 講義報告

企業の再生に欠かせない企業文化の醸成と挑戦 ～グローバルな組織間横連携を実現する、 技術者ネットワーク構築と次世代基幹人材育成支援～

講師：勝本 徹

元 ソニーグループ株式会社 執行役副社長兼 CTO、
ソニー・ユニバーシティ学長



1. 実施概要

2026年1月29日、東京科学大学 田町キャンパスにて「CUMOT×STAMP連携プログラム」の一環として講義を実施した。社会人受講生18名を対象に、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式で行われた。講義では、2012年度の経営危機から「クリエイティブエンタテインメントカンパニー」へと変貌を遂げたソニーグループの変革期に焦点を当てた。特に、技術者や次世代リーダーのグローバルネットワーク構築を通じ、エレクトロニクス、エンタテインメント、金融といった事業の壁を越えた「企業文化の醸成」への挑戦について詳述し、経営危機の本質とその後の変革における重要ポイントについて議論を深めた。

2. グループ討議のテーマ

経営危機における経営者の役割として、以下の3点を軸に討議を行った。

- ① 経営危機に陥る前に、外部環境の変化や内部状況をいかに察知すべきだったか。
- ② 企業文化を醸成・変化させるために、経営者が果たすべき役割とは何か。
- ③ 再生した企業が持続的成長を遂げるために、企業文化をどう進化させ続けるべきか。

3. まとめ

各グループからは活発な意見発表が行われた。特に、現在自社に経営課題を抱える受講生が、当事者意識を持って議論に臨んでいた姿が印象的であった。質疑応答でも多岐にわたる質問が寄せられ、関心の高さが伺えた。

4. 所感

初の講義にあたり、資料準備等で古俣先生には多大なご支援をいただいた。ハイブリッド形式ゆえにリモート参加者の反応が見えにくい場面もあったが、非常に貴重な経験となった。この場を借りて、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。